

新町小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上:「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～ICT活用の工夫～  
外国語教育:コミュニケーション能力や人と関わる力の育成に視点を当てた授業づくりの推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
前田 彩子	八波田 美幸 河野 由美

校長

竹中 章公

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能は、身に付いている。 ●語彙力が低い ●知識の活用ができていない。 ●話し方、聴き方が不十分。	・知識を活用し、学習の中で生かすことができる。	・体験的な学習を充実させる。 ・日常生活の中で学習したことを活用する場面を設定する。 ・読書の時間を確保。	・学習した語彙を用いた文章を意図的に作る機会を増やす。 ・学習の中で表やグラフを使って説明する活動を設定する。	・辞書やタブレットを使って言葉を調べることができたが、その活用にまで至っていない。 ・表やグラフを読みとる単元では、授業の中で説明をする活動を設定できた。	・話し方、聞き方については、継続的な指導が必要。 ・意図的に習得した知識や技能を使う場面を設定する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思いがあり、書き表すことが得意な児童が多い。 ●根拠を説明しながら、自分の考えをうまく伝えられない児童もいる。 ●友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができない。	・他者の意見を取り入れながら、自分の考えを深めることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を増やす。 ・話し合いの視点を示す。 ・授業の中で、自分の考えを書いて明確にするような手立てを取り入れる。	・小集団から段階的にグループを大きくし、話し合う機会を増やす。 ・話し合いの話型を提示して、授業の中で活用する。 ・自分の立場を明確にして、友達の意見と比べながら話し合う。	・同じ児童ばかりが発表し、授業を進めてしまうこともある。 ・話型を指導すると話し合いができるようになった。	・自分の考えを明確にして伝えることができるよう、下学年の段階から指導し積み重ねる。 ・思考ツールや話型を使った話し合いを繰り返し練習し、児童が見通しをもって学習できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習にまじめに、意欲的に取り組む。 ●自分で考えて行動することが苦手。 ●身の回りから課題を見つけ、主体的に取り組めない。	・自分で課題を見つけ、進んで調べようとする。	・人や物と関わりながら、学習の中で豊かな経験をさせる。 ・学校の学習を家庭学習とつなげ、ICTなどを使った調べ学習をする。 ・教室にチャレンジできる雰囲気をつくる。	・手立てを示すことでやる気を促し、児童それぞれの成果物を参考にし合うようにする。	・児童の発達段階や目的に応じたICT活用ができ、家庭学習につながる学びができつつある。	・各学年に応じた「学習の手引き」を作成し、家庭に配付して連携した支援ができるようにする。

令和4年度 学力向上ロードマップ

